きらめき

平成15年7月発行
第3号
発行：社会福祉法人 北星会
編集：広報誌編集委員会

新鮮・安心・手づくりメニュー

天橋園

メニューはいろいろあるけれど
利用者さんのおススメは…

〈人気メニュ〉
- かぶら蒸し
- お好み焼き
- ぼた餅
- お寿司
- 天ぷら　などなど……

朝食パンバイキングもやってます。

与謝の園

利用者さんのお好みは、昔食べていた
料理が多いようです。

〈こんなものが食べたいナ〉
- とろろごはん
- 麦ごはん
- 小魚の佃煮
- つつみもち
- ずいき芋の煮物

すいとん作り。

なぎさ苑

デイケア利用者さんから聞いた
昔なつかしい料理、食べ物

〈料　理〉
- 芋づるの炒め煮
- ろくとう汁
- とうがらしの葉の炒め物
- たけのこの味噌煮
- うご

〈食べ物〉
- はったい粉
- しいの実
- くわの実
- むかご
- ぐみ

多彩な取組み 生き活きライフ

なぎさ苑

土とふれあって…

なぎさ苑では日々、生き生きと過ごしていただけるよう園芸療法の一環として、季節の花々を育てたり、野菜作りに取り組んでいます。

2F・3F療養棟では、えんどう豆、玉ねぎ、いちご、さつまいもなどを育てています。先日、食べ頃になったえんどう豆・玉ねぎを収穫しました。皆さん、昔とった杵づか、嬉々として作業に集中一採れたえんどう豆は豆ごはん、玉ねぎは味噌汁の具になって、大満足の食事になりました。

デイケアでは、通用口付近の「なぎさ田んぼ」に水をはり、稲を植えつけました。小さな田んぼですが、みんなの愛情と陽の光をいっぱい浴びて、青々と元気よく育っています。

プランター作り（木工教室）に挑戦！

―グループユニットケアをめざして―

日々の生活の中にうるおいや生きがいを感じていただけるよう、個々のレベルにあったリハビリやケアに取り組んでいます。

B. A様（大工）
自分の懐かしい曲尺を使ったが線がきれいにひけないし、木を切るのも釘を打つのも思うにまかせず何度も投げ出しそうになったが、やればなんとかできた。又こんな機会を作ってください。

H. S様
生まれて初めて木工をしてとても楽しかった。完成したうれしさを思うと涙がでました。

T. Y様（家具職人）
最初、鋸がうまく引けなかったが、慣れてくると50年前の気分が乗ってきて、金槌もうまく打てた。久しぶりに面白かった。

M. H様（瓦職人）
すごくたのしかったし、またやりたいです。

家族新聞でなぎさ苑での生活ぶり、活躍ぶりをレポートされています。

なぎさ苑デイケア利用
椋平康介様

与謝の園

花を満喫・くらしを満喫

与謝の園流免許皆伝です。

絵画教室
絵手紙も描きたいな。

おやつ作り「いちご大福」

与謝の園作品集

押し花（しおり）

クレヨン画

墨絵

墨絵

天橋園

今日は楽しいお出かけ

お花見の楽しみは桜と手づくり弁当。

車で10分の日本三景。

満開のつつじに囲まれてハイチーズ。

習字クラブ

みなさんも、たまには筆をもってみてはいかが？

～楽しく健やかな生活を～

特別養護老人ホーム 与謝の園

選べる食事が人気です

おいしくゆとりある食事をしていただけるように努めています。昼食は2種類準備し、ご利用者が選べるようにしています。朝食にはバンバイキングや雑炊があります。もちろんご利用者の身体状況に合わせて、ミキサー食から荒きざみ食などさまざまな食事形態があります。また、時には外食に出かけることもあり、楽しみの一つになっています。

今日のお昼は回転寿司（外食）

楽しい夏の夜のひととき（地域ボランティアの皆様と）

地域との交流・家族会とのつながりを大切にして

与謝の園には、ボランティアや面会者など年間3,000人ほど来園されます。お花見や夏祭り、運動会などの行事をとおして、家族や地域の方々との交流を深めています。今後も地域と共に歩んで行きたいと願っています。

施設・在宅で、高齢者の生活を支援します

特別養護老人ホームのほか、短期入所、デイサービス、ホームヘルプサービス、訪問入浴サービスと、多彩なサービスメニューを備えています。経験豊かな介護支援専門員がご利用者やご家族と相談しながら、利用者一人ひとりに応じた介護サービス計画を作り、利用者の生活支援に努めています。

押し花に夢中（デイサービスセンター）

募集しています

- 看　護　師
- 理学療法士
- 作業療法士

詳しくは社会福祉法人北星会まで

TEL0772-22-0320

善意のご寄付

（平成14年9月～平成15年6月）

河島　正弘様
小谷　正義様
赤松　哲郎様
小谷　好子様
山中　　登様
松本　昭二様
上野　陽一様
椋平　知行様
中西比佐子様
石倉　洋子様
土井　茂暉様
坂根　　毅様
中辻　匡蔵様
椋棒　　豊様
堀口美根子様
福垣　梅野様
宮崎　　修様

（順不同）

ありがとうございました。

平成15年度事業計画について

■基本方針

介護保険制度に移行して3か年が経過し、介護報酬なども見直され、老人福祉事業は、極めて厳しい状況におかれることになりました。

こうした情勢を踏まえ、介護の原点に立ち返り、常に寄り添い、家庭同様の生活を保障し、利用者の自立を支援するため全職員が一丸となって取り組み、地域社会とともに歩む福祉施設を目標にして、各事業の推進に努めます。

■福祉施設部門事業計画

1　特別養護老人ホーム（天橋園、与謝の園）
利用者本意の、安全安心に配慮した介護サービスに努めます。レクリエーションやクラブ活動、園外活動などの諸行事を通じて、生きがいのある生活を提供します。

2　居宅介護支援事業（天橋園、与謝の園、はまなす苑、なぎさ苑）
居宅介護に関する総合支援機関として、利用者のニーズに基づく自立支援に向けた適切なケアプラン作成・管理など、地域や家庭における介護力向上をめざして支援します。

3　訪問介護事業（天橋園、与謝の園）
利用者の人権を尊重したホームヘルプ活動を推進し、介護の専門性と満足されるサービスを提供し、健全な居宅生活を支援します。

4　通所介護事業（天橋園、与謝の園、はまなす苑）
利用者のニーズに基づき、自立支援を心がけ、屋外活動・おやつ作りやレクリエーションなどを通して利用者一人ひとりの満足度を高めるサービスの提供に努めます。

5　短期入所生活介護事業（天橋園、与謝の園）
ケアプランに基づいたサービスの提供に努め、「寄り添う介護」を進めるとともに他事業所との連携を図りながら利用者家族の介護負担の軽減を図ります。

6　訪問入浴介護事業（与謝の園）
利用者の意思を尊重し、身体の清潔保持と精神的な緊張を緩和し、自立した日常生活を営めるよう支援します。

■老人保健施設部門

1　リハ・ヴィラなぎさ苑（短期入所療養介護を含む）
利用者一人ひとりのニーズに対応できる質の高い看護・介護サービスに努め、「安心、安全」な療養環境に配慮し、快適で充実した生活を送っていただくことを基本に、地域社会との交流を図り、信頼される福祉・保健サービスのネットワークの中心拠点としての役割を担うよう努力します。

2　通所リハビリテーション
リハビリを中心に、在宅でのADLやIADLの維持、向上を目標に、趣味活動やクラブ活動を通して生きがいづくりを図り、生活の質の向上に努めます。

「身体拘束ゼロ」への取り組みについて

介護保険施行とともに、人が人らしく生活できることを基本として、施設利用者の生命や身体を守るため緊急やむを得ない場合を除き、利用者の自由な行動を制限するような行為、いわゆる「身体拘束」は行ってはいけないことになりました。

北星会では、「身体拘束ゼロ」をめざして委員会を設け、サービスの質の向上に努めるとともに、身体拘束は人間の尊厳を侵害するだけでなく、高齢者のQOL（生活の質）を損なうということを常に認識し、職員の意識改革やマニュアル作り、また身体拘束しないことによる事故防止策など、リスクマネジメント委員会と連携しながら、利用者が安全で安心な生活をおくれるように努めています。

苦情解決第三者委員会について

この第三者委員会は、法人経営施設の福祉・保健サービスに関して、利用者からの苦情やご意見に対して、迅速かつ適切に対応しようというもので、平成14年12月と平成15年6月に開催しました。

委員会では、これまでのサービスに関する苦情・意見の内容、また、その対応状況や各施設の事故及びヒヤリ・ハット（事故までには至らなかったが、ヒヤッとしたこと）報告などを行い、第三者委員会からそれぞれ適切なご意見をいただきました。

今後は、苦情を糧として各施設さらに介護サービスの向上に努めるとともに、年間2回を目標に第三者委員会を開催していきたいと考えております。

平成14年度事業実績について

1. 福祉施設部門

入所サービス部門では、利用者の満足度を基本とした「真心こめた介護・看護サービス」の徹底と、身体拘束廃止に向けた取組み、リスク回避への取組みなど、利用者の安心と安全な生活環境の整備に努めました。

居宅サービス部門では、利用者が増加する中、通所介護の定員の見直しや、ヘルパー体制の拡大など、ニーズに合った体制づくりと、利用者の意思を尊重した「真心こめた介護サービス」に努めました。

また全サービス部門を通じて、苦情に対する迅速な対応をするとともに、その苦情を宝としてサービスの質の向上を図ってきました。

2. 老人保健施設部門

老健施設の理念である在宅復帰をめざし、リハビリを充実することにより、利用者のADL(日常生活動作)、IADL(日常生活関連活動)はもとより、より豊かで、生きがいのある治療生活の質の向上に努力しました。また、一人ひとりの症状に合わせたケアプランに基づいた個別対応にこころがけ、自立支援を図りました。

通所リハビリテーション部門では個人の症状にあわせたリハビリを行なうとともに、社会参加の機会が増え、QOL(生活の質)の向上や生きがいが見出せるような自立支援を重点に、サービス提供を行ないました。

平成14年度決算状況について

福祉施設部門（15事業）

老人保健施設部門（4事業）